

● 『土佐日記』	あえて女性になりきって書いた、 はじめての革新的な日記文学	016
● 『紫式部日記』〈その一〉	彼女にとって人生は苦行だった!? 平安社会になじめなかった悲しき才女の肉声	024
● 『紫式部日記』〈その二〉	『源氏物語』誕生の裏にあった、 「物語好きの仲間たち」の存在と、宮仕えの苦悩・葛藤	032
● 『和泉式部日記』	毎日が「はじめての恋!」 前代未聞のプライベート日記公開	040
● 『有明の別れ』	男装して透明人間になる 姫君の物語	048
● 『堤中納言物語』	短くてオチもはっきり、 「飽きの来ない」系アンソロジー	056
● 『浜松中納言物語』	「異世界転生」がキーポイント? トンデモ展開が際立つ、まるで「ライトノベル」な物語	064
● 『平家物語』	崇りへの畏れ、極楽浄土への願い。 死者と生者のための「鎮魂の物語」	072
● 『方丈記』〈その一〉	「厄難を書く」ことが非常識だった時代に、 あえてそれを記した貴重な災害文学	080
● 『方丈記』〈その二〉	変わり続ける世を見て紡がれた、 いつの時代も変わらない話	090
● 『徒然草』	孤独な男のつぶやきが古典の傑作として語り継がれる。 「よしなしごと」の膨大な噂話集	100
● 『新古今和歌集』	和歌オタクだから生み出した!? 「本歌取り」が盛んななされた勅撰和歌集	108
● 『おくのほそ道』〈その一〉	「移動」が創造の原動力だった!? さすらいの俳人・松尾芭蕉、四十六歳の紀行文	116
	はじめに	002

● 『おくのほそ道』 <sup>くその二</sup>	俳諧界の異端者・松尾芭蕉。 その凄さは、「美の再発見」にあり！	126
● 「春の海ひねもすのたり のたりかな」 <sup>ほか</sup>	早すぎた天才。絵師としても書家としても 超一流の異色の俳人が詠んだ句	134
● 『おらが春』	その生涯は不幸のオンパレード……、 人生の苦楽を飾らない語で詠み続けた俳人晩年の句集	142
● 『好色一代男』	「下品」に全賭け！ タブー視されていた 愛欲を肯定的に描いた大坂発の大ベストセラー	150
● 『曾根崎心中』	庶民のありのままを描き大ヒット！ 「江戸の現代劇」を生み出した遅咲きの脚本家	158
● 『根南志具佐』	戯作者・平賀源内、浮世を皮肉る。 「生まれるのが早すぎた男」の問題作	166
● 『南総里見八犬伝』	完結まで二十八年かかった超大作 生み出したのは江戸随一の「プロ商業作家」	174
● 『政談』	古代研究オタクなのに、政治の中心にいて 合理的なアドバイスをした男	182
● 『手枕』	著名な国学者であり、思想家、批評家でもある。 その真の功績は何か？	190
● 『学問のすすめ』	江戸から明治へ、言葉によって「日本」をアップデート 日本人十人に一人が読んだ大ベストセラー	198
● 『舞姫』	「ほんとうの自分」を海外に行って見つける、 究極の「思春期小説」	210
● 『吾輩は猫である』	私小説の全盛期に猫という「ツッコミの装置」を発明。 時代を変えた漱石の出世作	220
おわりに		228
日本文学主要作品年表		232